



立谷相馬市長による講話。災害発生時の対応について話した



相馬市防災備蓄倉庫の見学



防災備蓄倉庫の中では、東日本大震災の際に支援を行った団体や、災害時応援協定を結んでいる自治体の名前を展示。そのなかには総社市の名前もある



相馬市と総社市の消防員ら

# 福島県相馬市で総社市の消防団員が防災研修 東日本大震災から学び 南海トラフ地震に備える

福島県相馬市で総社市の消防団員が防災研修

市では、今年2月、福島県相馬市と「災害時相互応援協定」を締結。この協定に基づき7月21日、22日に市消防団員ら20人が相馬市で防災研修を行いました。市消防団員らは相馬市に到着後、相馬市防災備蓄倉庫を見学。同倉庫は、有事の際に備えて毛布や水、米などを備えているほか、敷

地内には殉職した消防団員の功績や、津波の被害を後世に伝える碑文を記した顕彰碑が建立されています。相馬市の立谷秀清市長の講話も行われ、震災発生後の対応状況や復興の様子などを説明。「災害時、消防団がいるだけで市民に安心感を与える」と消防団の重要性を述べ、また、「総社

市のための支援物資を常に準備してある。有事の際はすぐに駆けつけます」と支援を受けた感謝の気持ちを、力強く伝えていました。そのほか、被災地の視察や備蓄倉庫での宿泊訓練も行い、南海トラフ地震発生時に重要な役割を担う消防団員らは、市民を守る決意を新たにしていました。

問い合わせ 危機管理室 (☎) 8599

# これからの総社市を市民と考える

現在、今後10年のまちづくりの指針となる「新たな総社市総合計画」を策定しています。学生・女性・外国人・障がい者など多くの市民の「声」を聞き、計画に反映させようと、アンケートや意見交換会を行ってきました。市民一人ひとりの「声」と真剣に向き合い、よりよいまちづくりを目指していきます。

問い合わせ 政策調整課 (☎) 8213

— 外国人 —

— 学生 —

## 「岡山・倉敷に並ぶ新都心」

～ 全国屈指の福祉文化先駆都市 ～

市では、障がい者千人雇用・雪舟くん・英語特区など、独自の総社流政策や企業誘致により人口が増加しています。県内で、人口が増えている市は、岡山市・倉敷市・総社市の3市のみ。このことを踏まえ、新たな岡山県の拠点となるまちとして、支援を必要としている人が自立し、幸せや豊かさを感じながら、笑顔で暮らし続けられるまちを目指します。

— 子育て世代の女性 —

### 意見交換会・アンケートなどでいただいた主な意見

- 大学周辺を、活気のあるまちにしてほしい
- JR吉備線の運行数増加
- 外国人が集い・交流できる場の設置
- 子どもを安心して育てるため、市内に救急の総合病院建設
- 子育て中の女性や障がい者が働きやすい環境づくり

— 障がい者 —

## 総社流政策

# 全国から大注目！！

現在市では、障がい者千人雇用や新生活交通「雪舟くん」など、総社流の独自政策が注目を集めており、全国各地から多くの自治体の職員や議員の視察を受けています。

総社流政策をさらに魅力的なものにし、全国に発信できるよう、引き続き取り組んでいきます。

### 行政視察の受入数

平成 27 年度  
**43 件**  
(8月1日現在)

平成 26 年度  
**144 件**

### 視察の多いテーマ

- ◆ 障がい者千人雇用 (福祉課)
- ◆ 雪舟くん (交通政策課)
- ◆ 英語特区 (学校教育課)
- ◆ 地・食べ事業 (農林課)



雪舟くんのオペレーター室(写真上)、障がい者千人雇用センター(写真左)を視察する他自治体の市議会議員ら